

## 特許検索事例研究会 ～拒絶理由に学ぶ特許検索式の立案ノウハウ～

### 「演習問題 5：靴」の事例解説

#### 1. 演習問題 5 の内容

演習問題 5 の題材公報は「[特開 2019-000213](#)：靴」です。この特許出願の請求項 1 の新規性を確認するための検索式を検討してください。

##### 【発明の名称】靴

【要約】【課題】使用者の足を締め付けるとき、足の土踏まずのアーチを確保する。

【解決手段】靴（１）は、帯状のベルト（３０）と、ガイド部材（４１ａ～４１ｃ）と、ダイヤルユニット（６０）とを有する。ベルト（３０）は、使用者の足の土踏まずに相当する位置においてアウトソール（１０）に固定された基端部（３１）と、一对の羽根（２１）を覆う先端部（３２）とを含む。靴の前後方向におけるベルト（３０）の両側の縁（３３，３４）は、アッパー（２０）に対して離間可能である。ガイド部材（４１ａ～４１ｃ）は、ベルト（３０）の先端部（３２）に固定されており、ガイド部材（４１ａ～４１ｃ）にはワイヤ（５０）が係合している。ダイヤルユニット（６０）は、ワイヤ（５０）を巻き取るために用いられ、アッパー（２０）の外側側面（２３）に固定されている。

##### 【請求項 1】

使用者の足の土踏まずに相当する位置においてアウトソールに固定された基端部と、一对の羽根を覆う先端部とを含み、靴の前後方向における両側の縁がアッパーに対して離間可能な帯状のベルトと、  
前記ベルトの先端部に固定され、ワイヤに係合するガイド部材と、  
前記アッパーの外側側面に固定され、前記ワイヤを巻き取るためのダイヤルユニットと、  
を有することを特徴とする靴。

そして、拒絶理由の中で、【請求項 1】の新規性を否定するとして示された、国内特許公報の引用文献が 1 件ありました。

引用文献：[特開平 06-165704](#)

#### <拒絶理由通知書に記載された審査官のコメント>

引用文献には、土踏まずに相当する位置においてアウトソールに一方の端部が固定される第 2 の帯部材 5 であって、領域 1' a、1' b を覆い、靴の前後方向における両側の縁が靴の上部 1 に対して離間可能な第 2 の帯部材 5（段落[0016]、図 3）と、第 2 の帯部材 5 の先端部に固定され、牽引紐 3 b が係合する案内要素 3 1、3 3 と、靴の上部 1 の外側側面に固定され、牽引紐 3 b を巻き取るための中央閉鎖部材 3 とを有する（段落

[0028]－[0031]、図 6) 点が記載されている。

してみれば、上記請求項に係る発明は、引用文献に記載された発明である。

皆様は、この引用文献を抽出することができたでしょうか？ また、どのような検索戦略を立案すればヒットさせられるでしょうか？

## **2. 発明の認定および題材公報と引用文献との対比**

まずは、調査対象とした発明の認定作業から行いましょう。

今回の調査対象となる【請求項 1】は、ワイヤを用いて靴のアッパーを使用者の足に締め付けることができる靴において、アッパー部分の構造を特定しています。ダイヤルを回すことでワイヤ式の靴紐を締め付ける「ダイヤル式のシューズ」は、スノーボード用のブーツやゴルフシューズなどの分野で採用されることが多いようですが、ランニングシューズでも採用されているのも見かけます。今回の題材公報の出願人は「キャラウェイ・ゴルフ・カンパニ(Callaway Golf Company)」という米国のゴルフ用品の会社であり、日本法人の名称は「キャロウェイゴルフ株式会社」です。ローマ字表記の「Callaway」をカタカナ表記するときには「キャラウェイ」となったり、「キャロウェイ」となったりしています。ローマ字検索であれば「Callaway」の 1 語を指定すれば良いのですが、カタカナ検索を行う場合には「キャラウェイ OR キャロウェイ」と 2 語を指定しないといけませんね。

【請求項 1】では、帯状のベルト(30)と、ベルトの先端にはワイヤに係合されるガイド部材(41a～41c)を有し、アッパーの外側側面にはワイヤを巻き取るダイヤルユニット(60)を備えた靴を権利化しようとしています。

ここで、題材公報と引用文献に付与されている特許分類やキーワード表現の、一致点、相違点について確認してみましょう。図 1 は題材公報と引用文献の対比表です。

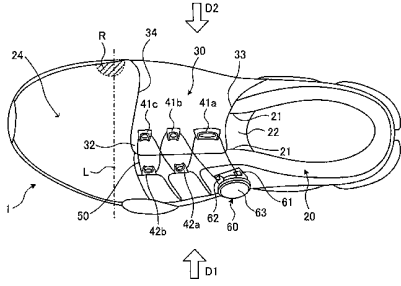
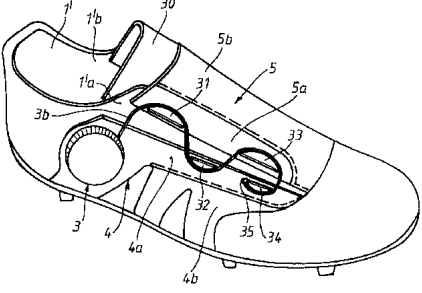
対比公報	題材公報 特開2019-000213	引用文献 特開平06-165704
図面		 本発明の第3の例
F I	A43B23/02,105Z A43C11/00	A43B5/00 A43B23/02,106 A43C11/16
F ターム	4F050	4F050 4F051
キーワード	靴	靴
	ワイヤ	牽引紐 牽引綱 ケーブル
	巻き取り	リール
	締め付け	閉鎖

図1 題材公報と引用文献の対比

特許分類について比較してみると、一つのF Iについては、「A 4 3 B 2 3 / 0 2 : 甲被、長靴の筒部」までは共通していますが、展開記号まで共通していません。もう一つの共通するF Iについては、「A 4 3 C 1 1 / : 靴用の特別なその他の緊締具」のメイングループまでは共通していますが、サブグループまで比較すると共通していません。

F タームについては、「4 F 0 5 0 : 履物及びその付属品、製法、装置」のテーマコードのレベルでは共通していますが、細分類まで比較すると、共通するF タームコードは「4 F 0 5 0 A A 0 1 : 短靴」という一つのみでした。

以上のように、特許分類の共通性を確認した印象としては、細部まで共通する分類コードは見られないといった印象になりますが、ワイヤ式の靴紐やワイヤ巻き取り機構といった特徴的な内容に関連する特許分類として、引用文献だけに付与されている、「A 4 3 C 1 1 / 1 6 : ワイヤ、ボルト、または類似のものによって取り付けられた緊締具」のF Iと、「4 F 0 5 0 M A 2 8 : 巻き取り機構を有するバンド（ワイヤ、ベルト）」のF タームが存在することを確認できました。

キーワード表現について比較してみると、「靴」というキーワードは共通して使われていますが、「ワイヤ」「巻き取り」「締め付け」という概念のキーワードについては、まった

く異なるキーワードが使われていました。いつもながら、キーワードの類義語展開の限界を実感せずには居られません。

具体的に比較すると、「ワイヤ」というキーワードに相当するキーワードとしては、「牽引紐」「牽引綱」「ケーブル」が使われていました。「巻き取り」に相当するキーワードは「リール」というキーワードが使われていました。「締め付け」に相当するキーワードとしては「閉鎖」というキーワードが使われています。「ワイヤ」に対する「ケーブル」とか、「巻き取り」に対する「リール」については類義語辞書を活用すれば連想することができるかもしれませんが、「締め付け」に対して「閉鎖」という類義語は連想するのは難しいのではないのでしょうか。

今回の解説の冒頭では、外国出願人名称の「カタカナ表記のバラつき」について紹介しましたが、外国人の特許を検索する時には、ローマ字の発音をカタカナ表記する場合や、翻訳によりどのように日本語化されるのかが問題となります。ちなみに、外国人の出願で「ワイヤ、ケーブル」というキーワードが使われていなかった事例を確認したところ、「テンショニング部材」「牽引紐」「引っ張り紐」といった表現が見られました。引用文献においては「traction cable」の和訳が「索引紐」とされていました。「牽引紐」ではなく「牽引ケーブル」と翻訳してくれていたなら、「ケーブル」と指定すればヒットするのになぁ～と思いました。日本人が日本語で表現するケースでさえ、予想しきれない類義語表現が存在するのに、外国人の出願については「翻訳」という要素がさらに加わることで、外国人出願の公報をキーワード検索する時には類義語展開に更なる注意が必要となります。

皆様は「ワイヤ式の靴紐の巻き取り」に関する特許分類を選定できたでしょうか？また、キーワードの類義語もうまく展開して、引用文献をヒットさせることはできたでしょうか？

### **3. 検索報告書からの学び**

今回の題材では登録調査機関に検索外注が行われ、登録調査機関より検索報告書が作成されていました。検索報告書の中では検索論理式やスクリーニングサーチの結果について報告されているので、登録調査機関の調査員が、どのような検索アプローチを実施しているのかを確認できます。

今回の調査は国内と外国の両方の調査が行われていましたが、国内特許調査については、No. 1～7とNo. 11～15までの12個のラインでの検索アプローチが行われていました。実際に行われた検索論理式とヒット件数を図2に示しました。

## ■検索論理式

年月範囲：年 月 日～2018年 6月 15日

【No.】	【クレームNo.】	【テーマコード】	【検索論理式】	【件数】
1	1-6	4F050	A43B23/02,105@Z	719
2	1-6	4F050	A43B23/02,106-¥01	223
3	1-6	4F050	A43B23/02,104-¥01-¥02	710
4	1-6	4F050	A43C11/16-¥01-¥02-¥03	41
5	1-6	4F050	A43C11/20-¥01-¥02-¥03-¥04	19
6	1-6	4F050	A43C11/02-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05	13
7	1-6	4F050	A43C11/00-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06	650
11	1-6	4F050	ワイヤ,30N,(リール+ドラム+巻取),30N,ベルト/TX-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06-¥07	2
12	1-6	4F050	(リール+ドラム+巻取),30N,開口/TX-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06-¥07-¥11	5
13	1-6	4F050	MA28-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06-¥07-¥11-¥12	3
14	1-6	4F050	BE25-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06-¥07-¥11-¥12-¥13	43
15	1-6	4F050	\$BC27-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06-¥07-¥11-¥12-¥13-¥14	294

※国内特許調査の検索式のみを抜粋

図2 検索報告書の検索論理式

No. 1～7までで、FIを指定した検索を行い、No. 11～12ではキーワード指定の検索を行い、No. 13～15ではFタームを指定した検索を行っています。No. 2の「A43B23/02, 106: 緊締部が側面または後部にあるもの」を指定したラインで引用文献が抽出されています。

題材公報と引用文献との対比により抽出された、「A43C11/16: ワイヤ、ベルト、または類似のものによって取り付けられた緊締具」のFIはNo. 7のラインで指定され、「4F050MA28: 巻き取り機構を有するバンド(ワイヤ、ベルト)」のFタームはNo. 13のラインで手当てされていました。

キーワードの類義語展開については、「ワイヤ」の類義語は残念ながら展開されていませんが、「巻き取り」の類義語として「リール」というキーワードは展開されていました。

そして、スクリーニングが行われた結果を図3に示しました。国内特許調査により4件の文献が抽出され、No. 1として抽出された提示文献が今回の引用文献です。

## ■スクリーニングサーチの結果

【No.】	【提示文献の種別】	【対話型追加文献の種別】	【提示文献】	【代表カテゴリ】	【式No.】
1	特許文献		特開平06-165704号公報	X	2
2	特許文献		特表平06-502775号公報	Y	1
3	特許文献		国際公開第2014/203416号	A	1
4	特許文献		特開2016-221232号公報	Y	1

※国内特許調査により抽出された文献のみを抜粋

図3 検索報告書のスクリーニングサーチの結果

引用文献は検索論理式 No. 2 のラインの検索で抽出されていますが、検索論理式 No. 2 以外の検索論理式 No. 4 と検索論理式 No. 13 の検索ラインでも引用文献はヒットすることになります。

今回の検索報告書の内容は、調査テーマに関連する F I と F タームを漏れなく選定されている印象があります。

#### 4. F ターム解説を活用する

今回検索で用いる F タームを選択する際に、F ターム解説を参照することが役に立ちましたので紹介したいと思います。

まず、普通に、ワイヤ巻き取り機構に関連しそうな F タームコード表を参照すると、以下の表記が確認できました。

4 F 0 5 0 M A 0 0 : 履物付属品  
4 F 0 5 0 M A 2 1 : ・ 靴紐以外の緊締具  
4 F 0 5 0 M A 2 7 : ・ ・ バンド (ワイヤー、ベルト)  
**4 F 0 5 0 M A 2 8 : ・ ・ ・ 巻き取り機構を有するもの**

この分類項目タイトルだけでも、「4 F 0 5 0 M A 2 8」は「ワイヤ巻き取り機構」に関連する F タームであると判断できると思いますが、F ターム解説を確認することで、より自信をもって関連する特許分類であり、検索で指定すべきであると確証がもてました。

図 4 には F ターム解説の参照手順を示しています。

まずは、「4 F 0 5 0」のテーマコード表のテーマコードの横にある「解説」という文字リンクをクリックすると、F ターム解説のページに切り替わります。

次に、F ターム解説の画面を下にスクロールしていくと、「F タームの説明」という部分で、観点 A A から順に各観点の内容が説明されています。そこで、「MA 履物の付属品」の部分参照すると、「MA」という文字リンクと、「図」という文字リンクがあるのを確認できます。



- 7 -

各細分類コードの説明文が表示されます。ウインドウを下にスクロールしていくと「MA 28」の説明文を参照することができます。Fタームコード表の項目タイトルよりも詳細な説明文章になっています。

**MA 28・・・巻き取り機構を有するもの バンド、ベルト、ワイヤーなどを緊締するに当り、巻取り治具などの機構を有するもの。(イメージ17)**

また、「図」の文字リンクをクリックすると、別のポップアップウインドウが表示され、「イメージ1」から順番に説明イラストを参照することができます。下方向へスクロールしていくと、「MA 28」の説明文にある『(イメージ17)』のイラストを確認することができます。表示されたイラストを参照すると、スキーブーツに設けられた、ワイヤ巻き取り機構の絵を確認することができます。さらに詳細を確認したければ、この図が記載されている公報の番号（特開昭59-22503）が示されているので、この公報を参照すれば、スキーブーツのワイヤ巻き取り機構の内容を確認することもできます。

以上のように、Fターム解説を参照することで、「4 F 0 5 0 MA 2 8」が今回の調査テーマに関連するFタームであると、自信を持って判断できました。

## 5. 実行したい検索式の具体例

今回の題材で実施できたら良いと思われる検索式の事例をご紹介します。調査テーマそのもののF IとFタームを指定したラインと、緊締部の分野に広げたF Iを使ったラインと、キーワードのみを使ったラインの検索式を紹介します。

**F I = A 4 3 C 1 1 / 1 6**

→ヒット件数：63件 題材公報：× 引用文献：○

「A 4 3 C 1 1 / 1 6：ワイヤ、ボルト、または類似のものによって取り付けられた緊締具」のF Iを指定した、特許分類指定のみの検索式です。

**F I = 4 F 0 5 0 MA 2 8**

× 全文=[位置, 場所]\*[検知, 感知]語順指定なし 15文字以内

→ヒット件数：71件 題材公報：× 引用文献：×

「4 F 0 5 0 MA 2 8：巻き取り機構を有するバンド（ワイヤ、ベルト）」のFタームを指定した、特許分類指定のみの検索式です。

**F I = A 4 3 B 2 3 / 0 2, 1 0 4**

× 全文=(ワイヤ+ケーブル)

→ヒット件数：123件 題材公報：○ 引用文献：○



「G06F3/01, 560: 緊締部」のFIに対して、全文中に「ワイヤ」の概念のキーワードを含むものに絞り込みました。

FI=A43B23/02, 104

× 名称+要約+請求項= (巻+リール)

→ヒット件数: 91件 題材公報: ○ 引用文献: ×

「G06F3/01, 560: 緊締部」のFIに対して、発明の主要部に「巻き取り」の概念のキーワードを含むものに絞り込みました。

名称= (靴+くつ+シューズ)

× 名称+要約+請求項= (ワイヤ+ケーブル+紐)

× 名称+要約+請求項= (巻+リール+回転)

× 名称+要約+請求項= (締+閉鎖)

→ヒット件数: 91件 題材公報: ○ 引用文献: ○

発明の名称に「靴」の概念のキーワードを含み、発明の主要部には「ワイヤ」「巻き取り」「締め付け」の概念のキーワードを含むものに絞り込みました。この検索式は、キーワード指定のみで、題材公報と引用文献の両方がヒットするように、強引に考えた検索式であり、「ワイヤ」の類義語に「紐」はちょっと違うかな～って思いますし、「緊締」の類義語に「閉鎖」を指定することは難しいと思います。

## 6. 今回の事例から学んだポイント

今回の演習課題への取り組みにより得られた知見をまとめます。

- (1) 外国の出願人名称検索を行う時には、カタカナ表記に気を付ける。
- (2) 外国人の出願が多い分野では、翻訳される日本語も考慮して類義語を展開する。
- (3) Fタームの分類内容を確認するときは「Fターム解説」を参照する。

日本で開発されたFタームは、関連する特許を精度よく抽出する検索のツールとして役に立ちます。しかし、検索に用いるべきFタームを適切に見極めないと、ノイズが増えてしまったり、調査モレが発生したりします。Fタームの内容を正確に把握するためにも「Fターム解説」をうまく活用したいですね。

－以上－